

会 報

No.46 (1993年11月)

目 次

◆第16回 日本分子生物学会年会のお知らせ(その3)	1
◆1992年度会計収支決算報告	4
◆1992年度会計監査報告	5
◆第16回 総会のご案内	5
◆日本分子生物学会拡大幹事会報告	5
◆日本学術会議第16期会員の選出に係る学術団体登録について	6
◆科学研究費補助金の審査委員候補者の推薦について	6
◆各種研究助成などへの本学会推薦について	6
◆各種シンポジウムのお知らせ	7
○ Human Genome Mapping Workshop 93	7
○ 第3回 アンチセンスシンポジウム	8
○ 千里ライフサイエンス振興財団 各種セミナーのご案内	9
○ 理研シンポジウム「データベースにおける変革」	9
○ 「国際植物ゲノム会議Ⅱ」についてのお知らせ	10
○ 第8回「大学と科学」公開シンポジウム 「ウイルス疾患の分子メカニズムーポリオからエイズまでー」	11
◆財団法人 長瀬科学技術振興財団 平成6年度助成候補者募集	17
◆新化学発展協会研究奨励金について	18
◆財団法人 ブレインサイエンス振興財団 各種研究助成候補者募集	19

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

日本分子生物学会第8期第2回評議員会報告

1993年10月25日 大阪・千里ライフサイエンスセンター

主席者 吉川寛（会長）、岩淵雅樹、大島靖美、岡崎恒子、小川智子、近藤寿人、鈴木義昭、関口睦夫、高浪満、富沢純一、豊島久真男、山本正幸、由良隆、大石道夫（編集幹事）、松原謙一（集会幹事）、小笠原直毅（庶務幹事）、釣本敏樹（会計幹事）

協議事項

1. 将来計画委員会の活動計画について

将来計画委員会より活動計画案が提案されたが、その中心として提案されたアンケート調査についてその目標、必要性等議論があり、委員会に再検討を求めることとした。

2. 欧文国際誌について

1995年1月を目標としている欧文国際誌について編集方針、発行の準備状況について富沢編集長（予定）より説明を受け、討議した。日本の研究レベルがきちんと反映される水準の高い雑誌を日本で発行することは、日本の研究を発展させる上でも重要であることが指摘された。

3. 学会費値上げについて

釣本会計幹事より学会の収支状況の分析結果について報告を受け、会費を正会員4000円、学生会員3000円に改定する会則変更を行うという会長提案について検討した。その結果、事務経費の赤字を解消し、国際誌発行の援助等の事業経費を確保するために値上げが必要であることが確認された。また、会の運営を長期的に安定なものにするため値上げ額を正会員について4500円とする修正案が提案された。修正提案について採決した結果、参加評議員全員の賛成で可決された。

4. 今年度および次年度以降の年会について

今年度、次年度年会の準備状況について報告を受けた。1995年度の年会長を岡崎恒子氏にお願いすることを決定した。

5. その他

本学会からの日本学術会議第16期会員の候補者及び推薦人を次回の評議員会で決定することとした。また、本学会からの科研費審査委員の推薦方法についても次回の評議員会で検討することとした。
(庶務幹事：小笠原 直毅)

【分子生物学会会費の値上げの提案について】

分子生物学会会費は発足以来正会員2500円、学生会員2000円でしたが、会員増に伴い諸印刷物が厚くなり、その印刷費、郵送費が増え、それだけで単年度の収支が赤字になり、学会としての積極的な活動を行う余裕がなくなっています。そのため、上記評議員会報告にあるように本年度総会議事「3. その他」として、会費を正会員4500円、学生会員3000円に改定する会則変更の提案を行うことを評議員会で決定しました。

◆第16回 日本分子生物学会年会のお知らせ（その3）

年会のプログラムができましたのでお届けいたします。なお、年会についてのお問い合わせ、各種のご連絡は下記宛にお願いいたします。

〒565 豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル14階
学会センター関西 内
第16回 日本分子生物学会年会 係
TEL 06-873-2301 FAX 06-873-2300

参加手続きについて

1. すでに年会参加費を払い込まれた方は、11月30日頃にお送りするネームプレート（領収書兼用）に、当日は名前をお書きになり、胸に着けてご入場下さい。
講演要旨集の発行予定日は11月20日で、その後すみやかに発送予定です。
2. 当日受付は、12月16日午前8時30分より日本コンベンションセンター（幕張メッセ）国際会議場の1階ロビーの受付で行います。
当日、参加費を支払われる方は、年会参加費 会員6,000円（ただし、学生会員は5,000円）、非会員7,000円をお支払いのうえ、年会講演要旨集とネームプレートを受け取ってご入場下さい。ネームプレートは会場内では常にご着用願います。
3. パーティは12月18日午後6時30分よりA会場にて開催いたします。費用は5,000円です。奮ってご参加下さい。
4. 講演要旨集のみ購入されたい方は、会報No.45に同封してお配りしました振替用紙にてご送金のうえ、お申込み下さい（1部：会員2,000円、非会員4,000円）。

ポスター発表についての注意事項

第16回 日本分子生物学会年会において、ポスター発表を予定しておられる方は、下記の注意事項に従い準備をして下さい。

1. ポスター発表演題には4ケタの発表番号がつけてあります。最初の数字は年会何日目であるか、次の3ケタの番号は掲示パネルの番号を示しています。発表番号についてはプログラムをご覧下さい。要旨の前に同じ番号がつけられています。
2. パネル上の掲示に使えるスペースは、150cm × 150cm で両側に約30cmの間隔があります。ポスター上部に、発表番号・演題・発表者名・所属を大きな字で書いて下さい。
見学者が特定のポスターを見いだすのに便利のように、演題・発表者名・所属は少なくとも5～6m離れた位置からも明瞭に見える大きさにして下さい。なお、代表発表者名の前に○印をつけて下さい。

3. 言語は日本語、英語のどちらでもかまいませんが、簡単な序論と結論を含めるようにして下さい。また、英文の題目・氏名・所属・サマリーをA 4 またはB 4 判用紙1枚にまとめ、序論の前に貼って下さい。
4. 研究内容は2～3 m離れたところからも読めるように、十分大きな字で書いて下さい。図・表等もできるだけ大きなものにして下さい。
5. ポスターの様式は自由です。カラーインクを用いて色分けする、図解を用いる、色付きの台紙に貼るなど見やすいものにする工夫をして下さい。
6. ポスター掲示およびポスターの取付け・取外しの時間は下記の通りです。時間を守るようにして下さい。取付けに必要な押しピンはポスター会場受付に準備してあります。

9 : 00 ~ 18 : 00	ポスター掲示 (最終日は17 : 00 まで)
8 : 30 ~ 9 : 00	取 付 け (第2, 3, 4 日目に発表の分については各前日の18 : 30 ~ 19 : 00 でも可)
9 : 00 ~ 10 : 30	口頭説明 (演題番号が奇数のポスター)
10 : 30 ~ 12 : 00	口頭説明 (演題番号が偶数のポスター)
18 : 00 ~ 18 : 30	取 外 し (最終日は ~ 17 : 30)

7. 指定された口頭説明の時間帯には説明・討論ができるようにポスターの掲示場所に代表発表者が待機して下さい。ポスター会場受付にて発表者を示すリボンをお渡します。お渡ししますので、これをお着け下さい。

シンポジウムの講演者の方への注意事項

第16回 日本分子生物学会年会シンポジウムの講演者の方は、下記の注意事項に従い準備をして下さい。

1. 講演者は、講演の30分前までに該当会場の入口のスライド・オーガナイザー受付で、各自スライドホルダーにスライドを入れ試写して下さい。
2. スライドは35mm判とし、プロジェクターは1台です。同一スライドを2回以上使用する場合は映写回数分をご用意下さい。
3. 講演はすべてオーガナイザーの指示に従って下さい。シンポジウムは、講演時間、討論時間が演題毎に異なりますのでご注意下さい。

シンポジウムのオーガナイザーの方への注意事項

第16回 日本分子生物学会年会シンポジウムのオーガナイザーの方は、下記の注意事項に従い準備をして下さい。

1. 担当時刻の 30 分前までに該当会場の入口のスライド・オーガナイザー受付までご連絡下さい。
2. 原則として会場内での写真およびビデオの撮影は禁止しますので、運営上ご留意下さい。
3. シンポジウムは、演題毎に講演時間、討論時間などが異なります。各シンポジウムの進行はオーガナイザーにお任せしますので、よろしくお願いたします。

バイオテクノロジー・セミナーについてのお知らせ

1. 第 1 日目から第 4 日目までの午前中、7 テーマについてバイオテクノロジー・セミナーが計画されております。詳細はプログラムならびに講演要旨集で紹介されます。

◆1992年度会計収支決算報告

1992年度学会会計収支決算は以下の通りになりましたので報告いたします。

(第7期 会計幹事 榊原祥公)

1992年度日本分子生物学会収支決算書(1992年4月1日～1993年3月31日)

収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
学 会 費	9,980,000	13,009,750	入会金 946,000 正会員 9,085,500 学生会員 2,758,500 外国会員 219,750
賛 助 会 費	1,080,000	1,020,000	
広 告 収 入	2,000,000	2,133,750	会員名簿
預 金 利 子	500,000	483,545	
寄 付 金	0	1,000,000	第15回年会より
雑 収 入	200,000	44,462	印税等
小 計	13,760,000	2,000,000	
前 年 度 繰 越 金	2,000,000	2,256,933	
合 計	15,760,000	19,948,440	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
事 業 費	2,800,000	3,634,850	第15回 年会 “
会 報 発 行	900,000	1,604,900	
プ ロ グ ラ ム	700,000	829,950	
特 別 講 演 謝 金	200,000	200,000	
第16回年会補助	1,000,000	1,000,000	
評 議 委 員 会 費	2,800,000	3,549,648	選挙関係印刷費含む (財)日本学会事務センター
委 員 会 費	800,000	668,918	
役員選挙名簿作製費	2,000,000	2,880,730	
業 務 委 託 費	4,400,000	6,152,773	プログラム、会報、名簿発送費 庶務幹事謝金
一 般 事 務 費	4,545,000	6,790,672	
用 品 費	5,000	1,998	
印 刷 費	80,000	289,300	
通 信 費	3,800,000	5,777,136	
庶 務 事 務 費	650,000	650,000	
雑 費	10,000	72,238	
予 備 費	300,000	0	
小 計	14,845,000	20,127,943	
次 年 度 繰 越 金	915,000	△ 179,503	
合 計	15,760,000	19,948,440	

◆1992年度会計監査報告

1993年6月7日、会計帳簿、預金通帳、領収書、日本学会事務センター出納記録などの監査を行い、決算に誤りのないことを確認しました。

日本分子生物学会第7期会計監査

池田日出男 ㊞

山本正幸 ㊞

◆第16回 総会のご案内

年会会期中に、日本分子生物学会第16回総会を下記により開催いたしますので、ご出席をお願いします。 (会長 吉川 寛)

記

日 時：1993年12月18日(土) 午後5:00～6:00

場 所：日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 国際会議場 C会場

◆日本分子生物学会拡大幹事会報告

日 時：1993年6月1日(火)

場 所：大阪 千里ライフサイエンスセンター

出席者：吉川 寛(会長)、石浜 明(将来計画委員長)

大石道夫(編集幹事、将来計画委員)、松原謙一(集会幹事、将来計画委員)

三浦謹一郎(将来計画委員)、山本正幸(将来計画委員)

釣本敏樹(会計幹事)、小笠原直毅(庶務幹事)

以下の事項について協議し、評議員会に提案することとした。

1. 大石幹事より国際誌発行の準備状況について報告を受け、日本分子生物学会としての支援について協議し、会員に基金を訴えること、科研費による定期購読が可能であるか等を検討することとした。
2. 三浦前会長より日本学術会議、分子生物学研究連絡委員会について報告を受け、分子生物学研究連絡委員会と学会との関係について協議し、当面 評議員会・将来計画委員会の合同会議を開くことを検討することとした。
3. 今期の将来計画委員会の課題について協議し、日本分子生物学会会員の動向について現状を把握するためのアンケート調査に基づき将来計画を考えるとの石浜将来計画委員長の提案を了承した。
4. 日本分子生物学会の収支状況について検討し、現状では学会としての新たな活動を行うことが困難であるため、現在の正会員 2,500円、学生会員 2,000円の年会費を、それぞれ 4,000円、3,000円に値上げする方向で検討することとした。

なお、本期第一回評議員会を10月25日に開催し、総会に向けて必要な事項を検討する予定です。
(庶務幹事 小笠原直毅)

◆日本学術会議第16期会員の選出に係る学術団体登録について

日本学術会議第16期(平成6年7月発足)会員の推薦のための候補者および推薦人の届出を行う資格を得るために、日本学術会議会員推薦管理委員会に学術研究団体としての登録を申請し、受理されました。

◆科学研究費補助金の審査委員候補者の推薦について

日本学術会議より平成6年度科学研究費補助金の基礎生物学分科・分子生物学細目の審査委員の候補者の推薦を依頼されました。審査委員には本学会より第1段審査委員3名、第2段審査委員1名を出していますが、本年度新たに選出が必要な2委員の候補として、4名の会員を推薦いたしました。

◆各種研究助成などへの本学会推薦について

○平成5年度(第20回)日産学術研究助成候補者として、選考委員会の意見に従い、下記6件を推薦した。

[一般研究(B)]

東北大学医学部教授 菅村和夫：IL-2受容体 γ 鎖遺伝子変異に起因する先天性免疫不全症の研究

千葉大学理学部教授 田村隆明：組織特異的遺伝子転写に関与する普遍転写因子ネットワークの検討

[奨励研究]

放射線影響研究所研究員 安倍真澄：V(D)J Recombination Cell-free Systemの確立

東京大学医学部付属病院助手 三谷絹子：慢性骨髄性白血病急性展開の分子機構の解析

大阪市立大学理学部助手 宮田真人：Mycoplasma capricolum ゲノム複製開始の制御機構

東京理科大学基礎工学部嘱託助手 中島琢磨：アデノウイルス2/5型E1A遺伝子産物によるヒト細胞のアポトーシス機構の解析

○平成5年度(第34回)東レ科学技術研究助成候補者として、選考委員会の意見に従い、下記2件を推薦した。

東京大学医科学研究所助教授 小林一三：遺伝子の自己認識破綻による破壊—遺伝
組換えと性と種の起源

東京大学医学部助手 児玉龍彦：マクロファージスカベンジャー受容体の構造と機
能

○山田科学振興財団より本学会より推薦した下記2名について1993年度研究援助が決定された旨連絡があった。

辻本 賀英：個体発生における bcl-2 遺伝子の機能の解析

伊藤 維昭：細胞膜における蛋白質トランスロケーターとアンカリングシステム

◆各種シンポジウムのお知らせ

○ Human Genome Mapping Workshop 93

Nov.14(Sun.) - 17(Wed.), 1993, Kobe, Japan

HGM 93 : First in a series of biennial meetings to facilitate interaction among human geneticists, molecular biologists, and representatives of the large - scale genome mappers.

HGM 93 : Fundamental to the massive international effort to map and ultimately sequence the human genome.

HGM 93 : The program is being launched by the organizing committee to assist the community working on the Human Genome Project and related areas.

Program

1. Poster Session

2. Chromosome Specific Sessions

- Chromosome 1 - 22, X, Y
- Clinical Disorder

- Mitochondrial DNA
- Neoplasia

3. Workshops on Selected Topics of Genome Research () : chair

- cDNA
- New Technology
- DNA Sequencing
- DNA Polymorphism and Genetic Maps

(Ann - Marie Poustka, Shoji Tsuji)
(Charles Cantor, Misao Ohki)
(Leroy Hood, Yoshiyuki Sakaki)

- Cytogenetic Maps
- Unusual Mammalian Genetic Mechanisms
- Comparative Maps and Model Organisms
- Polygenic Diseases
- Gene Therapy
- Ethics
- Informatics

(Jean Weissenbach, Yusuke Nakamura)
(David Ward, Tada - aki Hori)
(Hunt Willard, Norio Niiikawa)
(Steve O'Brien, Hiroshi Yoshikawa)
(Eric Lander)
(Stefan Karlsson, Takashi Shimada)
(Victor McKusick, Hiraku Takebe)
(Mark Lathrop, Minoru Kanehisa)

4. Symposium on "Genome Analysis and Medicine"

Chair : Yusuke Nakamura

Co - chair : Mark Lathrop

Speakers : Francis Collins, William Cookson, Robert Korneluk,
Janet D. Rowley, Grant R. Sutherland, Gilles Thomas

International Organizers

Sir Walter Bodmer	(UK)	Dr. Eric S. Lander	(USA)
Dr. Charles R. Cantor	(USA)	Dr. Kenichi Matsubara	(Japan)
Dr. C. Thomas Caskey	(USA)	Dr. Robert S. Sparkes	(USA)
Dr. Leroy E. Hood	(USA)		

President of HGM 93 : Dr. Kenichi Matsubara

Contact Address :

c/o Congress Corporation, Sunbird Bldg., 1 - 12 - 9, Oyodo - naka,
Kita - ku, Osaka 531, Japan

TEL +81 - 6 - 455 - 7527 FAX +81 - 6 - 454 - 4711

○第3回 アンチセンスシンポジウム

第3回 アンチセンスシンポジウムを以下の要領で開催いたします。

主 催：アンチセンスDNA/RNA研究会

協 賛：日本化学会、日本薬学会、日本生化学会、
日本分子生物学会、日本農芸化学会 他

記

日 時：平成5年12月2日（木） 10：00～17：00

3日（金） 9：00～17：00

（時間は予定です）

会 場：国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池 TEL 075-705-1234）

特別講演：数件を予定しています。

一般講演：総数25件程度（講演、討論を含め15分程度）を募集いたします。討論を目的としておりますので既発表の内容を含んでも差し支えありません。

講演申込締切：平成5年9月25日（土）

講演要旨締切：平成5年11月6日（土）

参加登録費：事前登録（平成5年11月6日（土）まで）

一般 3,000円、学生 1,500円

氏名、所属、連絡先（住所、電話、FAX）を明記の上、郵便振替（京都 4-77211、アンチセンスDNA/RNA研究会）にてお申し込み下さい。

当日登録：一般 4,000円、学生 2,000円

懇 親 会：平成5年12月2日（木）17：30より同会館にて開催します。

参加費：一般 6,000円、学生 3,000円。

原則として予約制とします。参加登録時にお申し込み下さい。

連絡先（事務局）：〒606 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

京都工芸繊維大学繊維学部高分子学科 内

アンチセンスDNA/RNA研究会

TEL 075-724-7814（村上）

FAX 075-722-2938

○千里ライフサイエンス振興財団 各種セミナーのご案内

○千里ライフサイエンスセミナー①

「骨粗鬆症の薬物療法の今後の動向 –新しい治療薬を求めて–」

日 時 平成5年12月2日(木) 10:00~17:35

場 所 千里ライフサイエンスセンタービル5階 ライフホール

(地下鉄御堂筋線千里中央駅北口すぐ)

(大阪府豊中市新千里東町1-4-2)

主 催 財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

協 賛 株式会社 千里ライフサイエンスセンター

コーディネータ 大阪大学医学部整形外科学講座助教授 高岡 邦夫

セミナーの概要

高齢人口の増加に伴い、質の高い老後生活への希求が強くなりつつある。骨粗鬆症の防止と治療は、より健全な骨格を維持し、骨折を防止し、活動力を維持するために必須であるとの認識が常識化してきた。しかし、その方法はまだ確立されておらず、今後もより有効な予防治療法へ向けての研究が望まれる。このセミナーでは、我が国での骨粗鬆症の現状と、治療薬開発のための基本的概念と方法論に焦点をしばった。

プログラム

1. 我が国における骨粗鬆症の疫学的背景と薬物治療の現状
鳥取大学医学部整形外科学講座教授 山本 吉藏
2. 骨の維持機構からみた骨粗鬆症の病態と治療薬開発のアプローチ
昭和大学歯学部生化学講座教授 須田 立雄
3. 骨塩定量の新技术 –診断と治療効果の検定のために–
滋賀医科大学放射線医学講座教授 森田 陸司
4. 骨粗鬆症の治療薬剤開発の今後
 - (1) 女性ホルモン療法の今後の展望 –副作用の克服と DDS –
大阪大学医学部産科学婦人科学講座講師 廣田 憲二
 - (2) 骨吸収抑制剤の効果と問題点
 - ① Bisphosphonates の今後
山之内製薬(株)第二分子医学研究所所長 川島 博行
 - ② Chimeric Calcitonin
中外製薬(株)医薬企画第二部副部長 村山榮五郎
 - (3) 骨の局所因子(骨形成因子)と骨粗鬆症
大阪大学医学部整形外科学講座助教授 高岡 邦夫

○千里ライフサイエンスシンポジウム②

「寿命の科学 —細胞の生命と個体の生命—」

日 時 平成5年12月20日(月) 10:00~17:50

場 所 千里ライフサイエンスセンタービル5階 ライフホール

(地下鉄御堂筋線千里中央駅北口すぐ)

(大阪府豊中市新千里東町1-4-2)

主 催 財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

協 賛 株式会社 千里ライフサイエンスセンター

コーディネータ (助)大阪バイオサイエンス研究所部長 長田 重一

東京大学医学部教授 井原 康夫

プログラム

1. 細胞死とがん遺伝子

国立がんセンター研究所部長

口野 嘉幸

2. bcl2による細胞死の抑制

大阪大学医学部バイオメディカル教育研究センター教授

辻本 賀英

3. Fas 抗原を介した細胞死と個体死

(助)大阪バイオサイエンス研究所部長

長田 重一

4. 脳虚血と神経細胞死

東京大学医学部教授

桐野 高明

5. アルツハイマー病研究の歴史的背景

東京大学医学部教授

井原 康夫

6. アミロイドタンパク質を介した細胞死と老化

(助)東京都神経科学総合研究所副参事研究員

吉川 和明

○千里ライフサイエンスセミナー③

幹細胞シリーズ第3回 『食細胞系』

日 時 平成6年1月21日(金) 10:00~17:00

場 所 千里ライフサイエンスセンタービル5階 ライフホール

(地下鉄御堂筋線千里中央駅北口すぐ)

(大阪府豊中市新千里東町1-4-2)

主 催 財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

協 賛 株式会社 千里ライフサイエンスセンター

コーディネータ 京都大学理学部動物学科教授

村松 繁

京都大学理学部動物学科助教授

稲葉 カヨ

セミナー概要

食細胞は最も根幹的な白血球である。食細胞がなければ、個体発生も生体の生存も成り立たない。このセミナーは、単核食細胞（マクロファージ）およびその類縁細胞の起源、分化、形態、機能に関し、それぞれの細胞系についての第一線の研究者に、最近の知見を含めて解説していただくように企画した。

プログラム

1. マクロファージ

熊本大学医学部教授 高橋 潔

2. 破骨細胞

明海大学歯学部教授 久米川正好

3. ミクログリア

藤田学園保健衛生大学医学部講師 錫村 明生

4. 樹状細胞

京都大学理学部助教授 稲葉 カヨ

5. 好中球

山形大学医学部教授 仙道富士郎

6. 無脊椎動物の食細胞

埼玉医科大学短期大学教授 和合 治久

○千里ライフサイエンスセミナー参加申込方法について

前記3種類の千里ライフサイエンスセミナー・シンポジウムの参加申込要領は以下の通りです。

受講料（講演要旨を含む）

会員（但し、大学、官公庁、主催・協賛団体会員）：5,000円

非会員：7,000円

学生：3,000円

定員（各セミナー・シンポジウムとも） 200名

参加申込方法 ①氏名 ②勤務先、所属、役職名、所在地、〒、電話、FAX番号

③振込予定日を明記の上、葉書またはFAXで下記宛お申込み下さい。参加費は申込後に各セミナー別振込銀行・財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛開催日の3日前までにお振込下さい。なお振込の際、振込者名の前に各セミナーに準じた記号をご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付いたします。

- セミナー① 「骨粗鬆症の薬物療法の今後の動向－新しい治療薬を求めて－」
住友銀行本店公務部（普）No.6262 振込記号 H 1
- シンポジウム② 「寿命の科学－細胞の生命いのちと個体の生命いのち－」
大和銀行千里中央支店（普）No.4601085 振込記号 S 3
- セミナー③ 「幹細胞シリーズ第3回 『食細胞系』」
大和銀行本店公務部（普）No.3093240 振込記号 A 3

申込先 財団法人千里ライフサイエンス振興財団 「(各セミナー名をご記入下さい)」

セミナー・シンポジウム係

〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル

TEL 06-873-2001 FAX 06-873-2002

担当：森田・松尾・堀木

ニ 理研シンポジウム

「データベースにおける変革」

研究環境が著しく変化している現状で、データベースに係わっている研究者・技術者にも、その変化の潮流を的確に把握することが求められています。コンピュータのハードウェアとソフトウェアの進歩ならびに普及、ネットワークの相互乗り入れと膨張、新しい学問分野の勃興等々、変化をもたらす要素は多々ありますが、今回はデータベースへの入力、データの管理ならびにデータの利用の各側面で主要なトピックスのいくつかをとりあげて「データベースにおける変革」を企画いたしました。

開催日：12月21日（火）

開催場所：〒351-01 埼玉県和光市広沢2-1

理化学研究所 和光本所 レーザー棟大会議室

（東武東上線または地下鉄有楽町線の和光市駅（池袋より約15分）から徒歩10分）

参加申込：理化学研究所ライフサイエンス研究情報室（11月末日締切り）

FAX 048-462-4618

電子メール sugawara@viola.riken.go.jp

共催：日本学会議学術データ情報研究連絡委員会、情報知識学会、
情報処理学会情報学基礎研究会、バイオプロセス研究会

プログラム：

9：25 開 会

菅原秀明（理化学研究所）

- 9 : 30 結晶構造データベースに於ける変革 渡辺、野口、鈴木、足立
(理化学研究所)
- 9 : 50 材料データベースシステムによる新たな発見 岩田修一 (東京大学)
- 10 : 30 コーヒーブレイク
- 10 : 45 ヒトゲノム解析におけるデータベースの研究開発動向
高木利久 (東京大学)
- 11 : 25 ネットワークがもたらす変革 宮崎 智 (理化学研究所)
- 11 : 45 オブジェクト指向技術がもたらす変革 尹 博道 (富士通)
- 12 : 25 昼食 & デモ
(ゲノムデータベース、SGMLなどのデモンストレーション)
- 13 : 35 デモ
- 14 : 00 データベースにおける変革 坂井利之 (龍谷大学)
- 14 : 15 SGML普及がもたらす変革 石塚英弘 (図書館情報大学)
- 14 : 55 図書館の情報化が求める変革 正本、高田、佐藤、菅原(洋)、
河野 (理化学研究所)
- 15 : 15 コーヒーブレイク & デモ
- 15 : 35 サイエнтиフィックデータベースの新たな展開
田中克己 (神戸大学)
- 16 : 15 マルチメディア情報ベースの構築 佐藤 誠
(日本科学技術情報センター)
- 16 : 55 データベース、知識ベースを超える情報ベースの展開
藤原 譲 (筑波大学)
- 17 : 35 閉 会

○「国際植物ゲノム会議Ⅱ」についてのお知らせ

(Plant Genome II, An International Conference on the Plant Genome)

昨年11月にPlant Genome Iの国際会議がアメリカ合衆国、カリフォルニア州サンディエゴ市で開催され、盛会裡に終わりましたが、第2回も同じくサンディエゴで開催される予定で、目下そのプログラムを検討中です。

以下にその概略をお知らせいたしますので、関係者の皆様にもお知らせ願います。

日 時 : 1994年1月24日(月) ~ 27日(木) の4日間

(他に23日(日)にコンピュータソフトウェアワークショップ、および前後にコムギとマツ(pine tree)のワークショップが予定されています)

場 所 : Town & Country Hotel, San Diego, USA (前回と同じ)

公式のセッション：

6つで、各4～6名の講演発表（事前にコンタクトしてある）と、他に、毎朝1時間の招待講演があります。その他の時間帯には、自由にポスターセッション（参加歓迎）会場が開かれています。

別に、半日を特定の植物種／トピックスのワークショップが予定されています。

Session 1 ; Mapping, Markers and Chromosome Structure (1)

Session 2 ; Mapping, Markers and Chromosome Structure (2)

Session 3 ; Instrumentation/Methodology/Transposon Technology

Session 4 ; Gene Transfer/Transformation

Session 5 ; Microorganisms and Organelle DNA

Session 6 ; Metabolic Pathways/Trait Expression/QTL'S

ポスター発表希望者および講演発表者は、Plant Genome II用の様式、1ページにアブストラクトをまとめ、11月1日までに下記のScherago International Inc.宛に届けることになっています（PG II用の様式も同じところに請求して下さい）。

参加費：\$ 300（1993年12月1日までに登録した場合）

\$ 350（1994年1月以降登録者、当日参加者）

\$ 100（学生参加者）

以上のようなことで準備中ですが、8月中には最初の案内と登録用書式が送られてくると思います。ご関心のある方は、下記のScherago International, Inc. か筑波大学農林学系 高柳謙治宛ご一報いただければ、これから先のご案内書等をお届けいたします。

連絡先・〒305 つくば市天王台1-1-1

筑波大学農林学系

高柳 謙治

TEL 0298-53-6620 or 4710 (lab.)

FAX 0298-53-6617

○第8回「大学と科学」公開シンポジウム

「ウイルス疾患の分子メカニズム－ポリオからエイズまで－」

会 期：平成6年2月3日（木）～4日（金）

会 場：有楽町朝日ホール

主 催：第8回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会

プログラム :

2月3日(木) 9:50~17:15

■ウイルスとは……総論1

ウイルス-細胞-疾病

司会 大阪大学微生物病研究所長 豊島久真男

京都大学ウイルス研究所長 畑中 正一

■細胞内でのウイルス遺伝子の活動

司会 学習院大学生命分子科学研究所長 三浦謹一郎

1. ウイルス遺伝子の複製 東京工業大学生命理工学部助教授 永田 恭介

2. ウイルス遺伝子の転写 北里大学薬学部教授 水本 清久

3. ウイルス蛋白質の合成 北里大学薬学部助手 豊田 春香

■宿主生物とのコミュニケーション

司会 神戸大学名誉教授 本間 守男

1. ウイルスの組織特異性の決定 東京大学医科学研究所教授 永井 美之

2. ウイルスに対する抵抗性 国立遺伝学研究所教授 石浜 明

3. 植物ウイルスの宿主域 帝京大学理工学部教授 岡田 吉美

■ウイルスとは……総論2

ウイルス学の成果と生物学

司会 北里大学薬学部教授 水本 清久

学習院大学生命分子科学研究所長 三浦謹一郎

2月4日(金) 10:00~16:45

■ウイルスとは……総論3

ウイルス-人-自然

司会 東京大学医科学研究所教授 野本 明男

国立予防衛生研究所名誉所員 大谷 明

■ウイルス感染症との戦い

司会 大阪大学微生物病研究所教授 山西 弘一

東京医科歯科大学医学部教授 山本 直樹

東京大学医学部教授 吉倉 廣

1. 肝炎(C型肝炎ウイルス) 東京大学医学部教授 吉倉 廣

2. 子宮頸がん(パピローマウイルス)

国立予防衛生研究所研究主幹 吉池 邦人

3. ヒト白血球(HTLV-1) 東京大学医科学研究所教授 吉田 光昭

4. エイズ(HIV) 熊本大学医学部教授 高月 清

5. 小児マヒ制圧に向けて 東京大学医科学研究所教授 野本 明男

■ウイルスとは……総論4(結びにかえて)

司会 国立遺伝学研究所教授 石浜 明

ファジーなRNAウイルス遺伝子 東京大学医科学研究所教授 永井 美之

聴講費：無料。聴講希望者が多数の場合には抽選となります。

聴講申込：シンポジウム名『ウイルス』・氏名・住所（自宅か勤務先を明記）・職業（勤務先における職務を明記）をハガキにご記入の上、下記宛にお申込み下さい。

申込先：〒102 千代田区富士見2-3-1 信幸ビル
クバプロ 内 『ウイルス』事務局
TEL 03-3238-1689 FAX 03-3238-1837

申込締切：平成6年1月26日（水）

◆財団法人 長瀬科学技術振興財団 平成6年度 助成候補者募集

財団法人長瀬科学技術振興財団は、わが国の生化学および有機化学等の分野における研究開発および国際交流に対し助成等を行うことにより、科学技術の振興を図り、もって社会経済の発展に寄与することを目的として、下記のとおり平成6年度の研究助成を行う事といたしました。

（詳細は長瀬科学技術振興財団までお問い合わせ下さい。）

記

(1) 研究助成対象

- ①生化学および有機化学等の分野において研究活動を行う研究者または研究機関
- ②生化学および有機化学等の分野において研究調査を行う研究者の海外派遣または招聘（除く留学）

生化学は次の分野とします。

- ・微生物の基礎および応用研究
- ・酵素の基礎および応用研究
- ・細胞培養の基礎および応用研究
- ・内因性防御物質の応用研究

有機化学は次の分野とします。

- ・ π 電子系機能材料の基礎および応用研究
- ・分子機能材料、機能分子デバイスの基礎および応用研究
- ・新規生理活性物質等の生体関連機能物質の合成研究

(2) 助成対象期間

平成6年4月から平成7年3月末まで

(3) 件数および金額

- | | | |
|----------|------------|-------|
| ①研究助成金 | 1件 250万円程度 | 10数件 |
| ②国際交流助成金 | 1件 50万円程度 | 10件程度 |

(4) 応募資格

- ①研究者であれば個人またはグループを問いません。
- ②同一内容で他の財団から既に助成を受けている個人またはグループはご遠慮願います。
- ③当財団に結果の報告書提出が可能な方。

(5) 応募の締切り

平成 5 年 12 月 15 日 (必着)

(前回より約 2 週間早くなっております)

(6) 交付の時期

平成 6 年 4 月 予定

(7) 応募要領および注意事項

- ①当財団所定の用紙に記入して応募して下さい。
応募ご希望の方、下記宛に はがき あるいは FAX等書面でご請求下さい。申請用紙を折返しお送りいたします (電話での請求はご遠慮下さい)。
- ②申請書は、正・副各 1 通提出して下さい。
- ③申請書は、ホッチキスでとめずに、クリップ等でお願いいたします。
- ④申請にあたりましては、1 件の応募につき、1 通の封筒でお願いいたします。
- ⑤当財団が申請書を受領したことをお知らせするため、宛名 (郵便番号、住所、氏名、機関名等) をご記入の上、「返信用はがき」を同封下さい。

(8) 問合せ先

財団法人 長瀬科学技術振興財団

〒550 大阪市西区新町 1 丁目 1-17

TEL 06-535-2117 FAX 06-535-2160

(東京連絡所：〒103 東京都中央区日本橋小舟町 5-1

TEL 03-3665-3021 FAX 03-3665-3030)

◆新化学発展協会研究奨励金について

○研究奨励金の交付と研究計画の募集について

社団法人 新化学発展協会

社団法人 新化学発展協会においては、基礎研究の推進と研究者の育成を通じて新化学の発展を図るため、新化学の発展に資する若手研究者の研究に対し、概要下記の通り、研究奨励金を交付いたします。研究奨励金の交付を希望される方は、下記の課題の中から1つを選んで研究計画を作成し、略歴、既発表論文の一覧表とともに協会事務局まで提出して下さい。（課題の説明および応募要領等詳細は、新化学発展協会までお問い合わせ下さい。）

記

1. 研究課題

（ライフサイエンス分野）

- ① 加齢に伴う血管の障害、修復、異常新生に関する基礎研究
- ② 遺伝子発現転写調節系に関する研究

（電子情報技術関連分野）

- ③ ハイブリッド系電子材料の機能発現に及ぼす界面現象の基礎的・理論的研究
- ④ 湿式プロセスによる機能性薄膜の創製および電子デバイスへの応用に関する研究

（新素材技術関連分野）

- ⑤ インテリジェント／ワイズ・マテリアルに関する先導的研究

（触媒関連分野）

- ⑥ 制御された細孔をもつ固体を利用した形状選択性反応の研究

（コンピュータケミストリー関連分野）

- ⑦ コンピュータによる高分子の実用面の特性と高次構造との関係予測に関する研究

（地球環境問題関連分野）

- ⑧ 水圏における化学物質の環境負荷評価法または除去法に関する研究

2. 応募資格

大学等における研究者であって、39歳以下の者（昭和29年4月1日以降に出生した者）

3. 件数および金額

原則として各課題毎に1件、1件につき150万円

4. 条件

1～2年以内に協会の研究会等で研究成果を報告する。

5. 応募の締切りおよび交付の時期

応募の締切り 平成6年3月4日（金）

奨励金の交付 平成6年6月の予定

6. 応募および問い合わせ先

〒101 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4階

社団法人 新化学発展協会 研究奨励金 係

TEL 03-3294-8031

◆財団法人 ブレインサイエンス振興財団 各種研究助成候補者募集

○第8回塚原仲晃記念賞 受賞候補者推薦要領

1. 趣 旨

生命科学の分野において優れた独創的研究を行っている45歳以下の研究者（国内外を問わない）に対して塚原仲晃記念賞を贈呈する。

2. 褒 賞 金

贈呈件数は原則として1件とし、賞牌ならびに副賞（200万円）を贈呈する。

3. 推 薦 者

- (1) 関係各学会代表責任者または所属機関の長とする。
- (2) 当財団の理事および評議員とする。

4. 推薦件数

1推薦者から1件に限る。

5. 推薦方法

所定の用紙に必要な事項を記入し、当財団に提出する。（複写用紙を用いてもよい）

6. 推薦締切日

平成5年11月30日（火）とする。

7. 選考の方法

選考委員会において選考し、理事会において決定する。

8. 選考結果の通知

平成6年3月末日までに推薦者および受賞者あて通知する。

9. 塚原仲晃記念賞の贈呈 その他

贈呈決定者に対して、別途通知する。

○第8回研究助成候補者推薦要領

1. 趣 旨

ブレインサイエンス研究分野において、独創的で国際的評価に値する研究を助成する。研究分野は、脳神経に関する実験研究のみならず理論・モデリング研究をも含む。候補者は、単独であっても、また共同研究であってもよいが、なるべく若い研究者の推薦を希望する。

2. 研究助成金

助成額は1件100万円、助成件数は8件とする。

3. 推 薦 者

- (1) 関係各学会代表責任者または所属機関の長とする。

- (2) 当財団の理事および評議員とする。
4. 推薦件数
1 推薦者から 1 件に限る。
 5. 推薦方法
所定の用紙に必要事項を記入し、当財団に提出する。(複写用紙を用いてもよい)
 6. 推薦締切日
平成 5 年 11 月 30 日 (火) とする。
 7. 選考の方法
選考委員会において選考し、理事会において決定する。
 8. 採否の通知
平成 6 年 3 月末日までに推薦者あて採否を通知する。
 9. 助成金の交付
助成決定者に対しては、平成 6 年 5 月末日までに研究助成金を送呈する。
 10. 助成金の使途
助成金は、推薦書記載の通り使用することを原則とする。なお、経理報告書を平成 7 年 4 月中に提出すること。
 11. 成果の報告
研究の成果については、平成 7 年 4 月中に成果報告を当財団に提出するものとする。また、財団主催の研究会において発表をお願いする。助成金による研究を専門誌に発表する場合には、“財団法人 ブレインサイエンス振興財団 (英文の場合は、Brain Science Foundation) の助成による” 旨を書き添えること。

○ 第 7 回海外研究者招聘助成候補者推薦要領

1. 趣 旨
ブレインサイエンス研究分野において、独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の短期間 (3 ヶ月以内) の招聘 (旅費または滞在費) を助成する。
ただし、助成金は、外国人研究者を招聘する受入責任者に交付する。
2. 招聘の時期
平成 6 年 4 月 1 日から平成 7 年 3 月 31 日の間に外国の研究者を招聘するもの。
3. 助成予定額
 - (1) 予算として 100 万円を計上している。
 - (2) 1 件あたりの助成額は、往復の航空運賃または滞在費とし、40 万円までを限度として必要額を助成する。

4. 推薦件数

- (1) 関係学会代表責任者または受入責任者の所属機関の長とする。
- (2) 当財団の理事および評議員とする。

5. 推薦件数

1 推薦者から 1 件に限る。

6. 推薦方法

所定の用紙に必要事項を記入し、当財団に提出する。(複写用紙を用いてもよい)

7. 推薦締切日

平成 6 年 1 月 11 日 (火) とする。

8. 選考の方法

選考委員会において選考し、理事会において決定する。

9. 採否の通知

平成 6 年 3 月末日までに推薦者あて採否を通知する。

10. 助成金の交付

助成決定者に対しては、平成 6 年 4 月から必要に応じて受入責任者に送呈する。

11. 助成金の使途

外国人研究者招聘助成金は、推薦書記載のとおり使用することを原則とする。

12. 成果の報告

招聘の成果について、招聘後 2 ヶ月以内に受入責任者より報告書を当財団に提出すること。

○第 7 回海外派遣研究助成候補者推薦要領

1. 趣 旨

我が国におけるブレインサイエンスの研究の促進を図るため、国際学会、シンポジウム等への参加、あるいは短期間(6 ヶ月以内)の共同研究のための研究者の海外派遣を助成する。

ただし、平成 6 年 4 月から平成 7 年 3 月の間に出発出来るものに限る。

2. 助成予定額

- (1) 予算として 150 万円を計上している。
- (2) 1 件あたりの助成額は、往復の航空運賃を主とし、40 万円を限度として若干件を助成する。

3. 推 薦 者

- (1) 関係学会代表責任者または所属機関の長とする。
- (2) 当財団の理事および評議員とする。

4. 推薦件数
1 推薦者から 1 件に限る。
5. 推薦方法
所定の用紙に必要な事項を記入し、当財団に提出する。(複写用紙を用いてもよい)
6. 推薦締切日
平成 6 年 1 月 11 日 (火) とする。
7. 受入先の承諾書
受入先の承諾書(学会、シンポジウム等参加の場合は、参加証明書または招待状の写を、短期の共同研究の場合は、受入機関または共同研究者の手紙の写)を添付すること。
8. 選考の方法
選考委員会において選考し、理事会において決定する。
9. 採否の通知
平成 6 年 3 月末日までに推薦者あて採否を通知する。
10. 助成金の交付
助成決定者に対しては、平成 6 年 4 月以降に出発時期に応じて送呈する。
11. 助成金の使途
助成金は、推薦書記載のとおり使用することを原則とする。
12. 成果の報告
帰国後 2 ヶ月以内に派遣の成果について、報告書を当財団に提出すること。

前記 4 件の財団法人 ブレインサイエンス振興財団 各種研究助成問合せ先は下記の通りです。

推薦書提出先および連絡先

財団法人 ブレインサイエンス振興財団

〒104 東京都中央区八重洲 2 丁目 6 番 20 号

TEL 03-3273-2565 (直通)

日本分子生物学会 会報

年3回刊行（6月・11月・2月）

第46号（1993年11月）

発行：日本分子生物学会 庶務幹事

製作：学会センター 関西

（財）日本学会事務センター 大阪事務所